

7-4 岐阜県東部の活断層周辺における地殻活動観測結果 (2013年11月～2014年4月)

Observation of Tectonic Activities around the Active Faults in Eastern Gifu Region (November, 2013～April, 2014)

産業技術総合研究所

Geological Survey of Japan, AIST

1. 観測概要

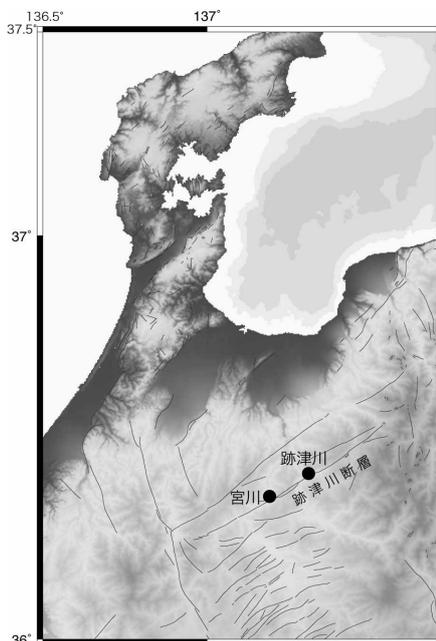
産業技術総合研究所は跡津川断層沿いの宮川・跡津川において地殻活動総合観測設備を設置している(第1図)。宮川は深度約300mの坑井を掘削し、坑底に3成分ひずみ計・高感度地震計(1 Hz, 3成分速度計)を設置。深度256.78～267.66 mの滞水層での地下水位と体積温度計の計測も行なっている。跡津川は坑道内に深度約50mの坑井を掘削し、坑底に3成分ひずみ計を設置。地下水位と体積温度計の計測も行っている。

2. 観測結果概要

宮川(第2図) :水位, 歪計は潮汐変化を書く。降雨の影響が大きい。2012年8月31日フィリピン東方沖の地震 Mw7.6, 12月7日三陸沖の地震 Mw7.3, 2013年2月6日サンタクルーズ諸島の地震 Mw8.0, 4月13日淡路島の地震 Mw5.8, 5月24日カムチャッカ半島沖の地震 Mw8.3, 10月26日福島県沖の地震 Mw7.1, 2014年4月2日チリ北部沿岸の地震 Mw8.1 及び4月13日, 19日ソロモン諸島の地震 Mw7.6, 7.5では, 歪計のステップ及び地下水位の変化は見られない。

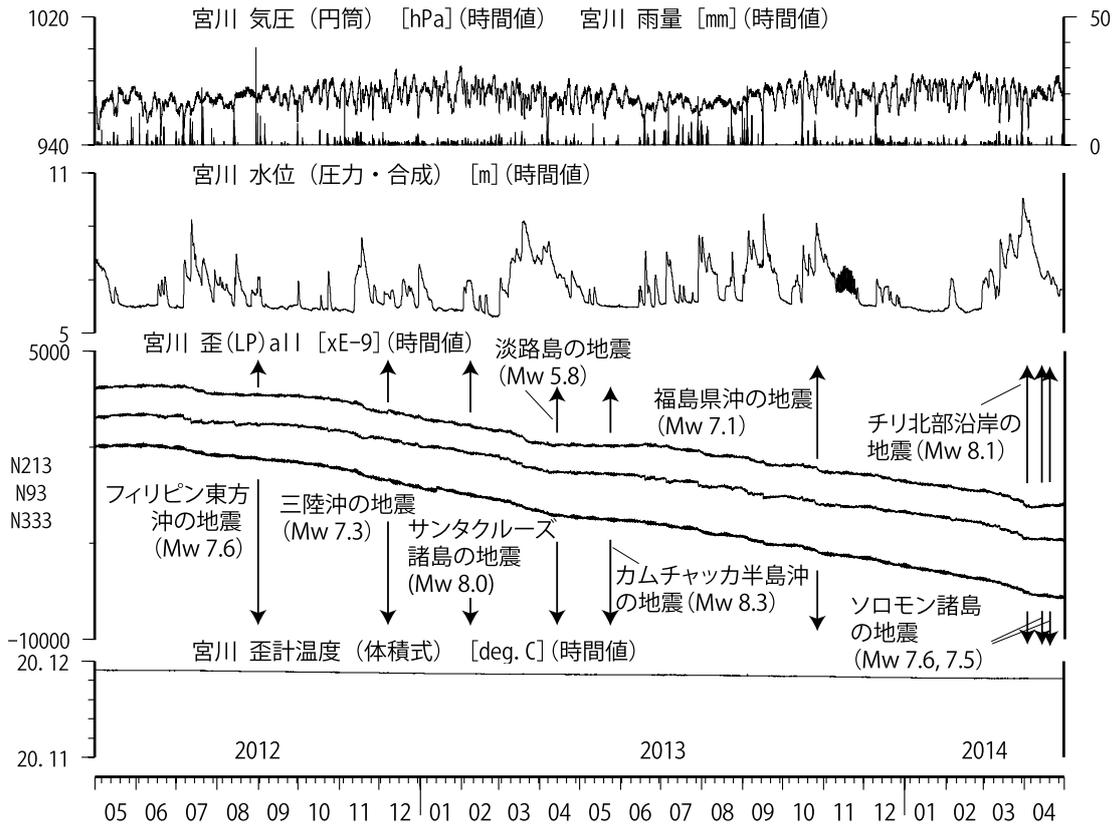
跡津川(第3図):水位, 歪計は潮汐変化を書く。降雨の影響が小さい。2002年4月初旬から数カ月周期の温度, 歪の不安定な変動が続いている。フィリピン東方沖の地震, 三陸沖の地震, サンタクルーズ諸島の地震, 淡路島の地震, カムチャッカ半島沖の地震, 福島県沖の地震, チリ北部沿岸の地震及びソロモン諸島の地震では, 歪計のステップ及び地下水位の変化は見られない。

(木口努・桑原保人・今西和俊・松本則夫)

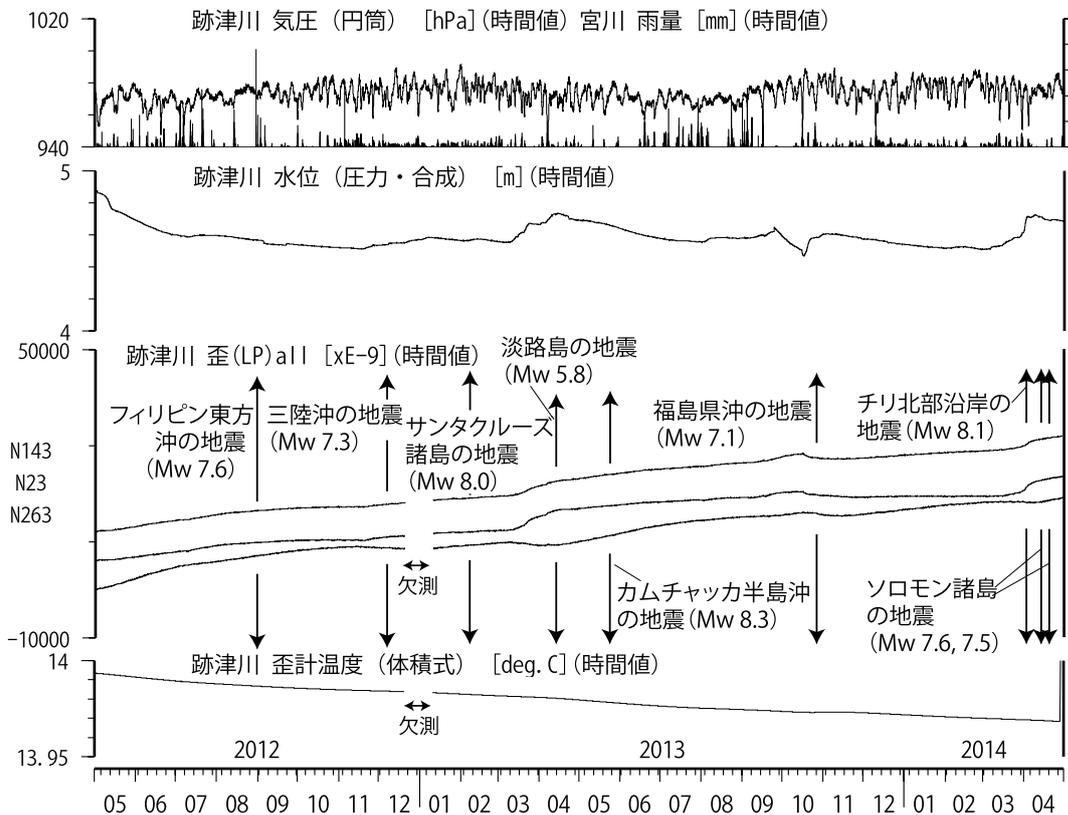


第1図 跡津川断層沿いの宮川・跡津川における地殻活動総合観測点位置

Fig.1 Location map of the observation boreholes at Miyagawa and Atotsugawa along the Atotsugawa fault.



第2図 宮川における歪観測結果 (2年間)
 Fig. 2 Results of strain meters at Miyagawa (for 2 years).



第3図 跡津川における歪観測結果(2年間).
 Fig.3 Results of strain meters at Atotsugawa (for 2 years).